
気まぐれで短めの連載に挑戦！

叶夢

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

気まぐれで短めの連載に挑戦！

【Nコード】

N2513BA

【作者名】

叶夢

【あらすじ】

短いかどうかなんて書いてみないと分かりません！WW

ユイ

カナ「今日はライブ行こ！」

そう言って友達のカナに連れられてここ、小さめのライブハウスに
来た

ユイ「カナあ…耳痛いよ…」

カナ「慣れれば大丈夫♪」

そんなこんなで誰か知らないバンドの演奏が始まった

ユイ「…！」

…かっこいい！！

ヴォーカル「どうも！phantomです！今日は盛り上がって
きましょー！」
フアントム

カナ「ユイ！phantomのヴォーカルかっこいいでしょ？」

ユイ「…うん」

その日は、その人のことしか頭に無かった

一日中、ずっと名前も知らないひとのこと好きになって考えてた

カナ「終わったー！」

ユイ「バンドってこんなにたくさんあるんだね」

カナ「そうだよー！疲れた？」

ユイ「正直」

カナ「さ、次は打ち上げよお！」

ユイ「え?!」

????「カナ」

後ろから顔を出したのは

カナ「お疲れ〜! 今日もよかったよ」
????「サンキュ」

カナ「あ、この子あたしのダチのユイ」

????「今日は来てくれてありがと。じゃ、打ち上げいきますか」

あの人だ!!!

phantomのヴォーカルのひと!

ユイ「あの!」

ヴォーカル「ん」

ユイ「…お名前は?!」

葵「あ、俺? 葵です」

ユイ「あ…ユイです!」

カナ「さっきあたしが言ったでしょw」

カナの突っ込みで動き出す

ついたのはかの有名な焼き鳥屋さん

葵「2人は未成年でしょ? じゃ、オレンジジュースね」

カナ「しかたないな」

ユイ「仕方ないって! 当然でしょ?!」

カナ「冗談だよw」

葵「ユイちゃんは知らないか。メンバー紹介でもする？」

そう言って4人がすっと立ち上がった

葵「さっきも言ったけどヴォーカルの葵です^{アオイ}」

信「俺はギターの信です^{シン}！」

祥「ベースの祥です^{ショウ}」

昂「ドラムの昂です^{スバル}。よろしくへへ」

カナ「皆漢字一文字なんだよ♪」

ユイ「あたしも一文字！結うって漢字」

カナ「あたしだけあたしだけ二文字じゃん！」

葵「ま、ユイちゃんこれからよろしくね！」

ユイ「はい！」

あたしは打ち上げ中も葵さんから目が離せなかった

カナ

ユイ「ただいま」

母「ただいまじゃないでしょ！勉強もしないで何してるの？！」

ユイ「はいはい」

母「そんなだったら家庭教師つけて無理にでも勉強させるわよ！」

せつかく気持ちのいい日だったのに…

ユイ「勝手にすればあ？」

なんなの？母さんはどれだけ勉強したからそんなことが言えんのよ

ユイ「ああもう！」

部屋でまた葵さんのことを考えてみる

ユイ「一目惚れなんて初めてだなあ」

そのとき、鞆の中で響く着信音

『f r o mカナ

葵クンがユイのメアド聞きたいらしいよ？いい？』

ユイ「え？！」

今思うと、カナからのメールにしては寂しい気がした
でも嬉しくてそんなどころじゃなくて…

『全然いいよ♪葵さんにもよろしくね!』

って返信

『from葵

カナから聞きました!

今日は本当にありがとう♪

これからもphantomをよろしくね!!!』

愛しのひとからの初メール:

『はい!よろしく願います!——

時計を見ると夜十時を回ってた

『はい!よろしく願います!おやすみなさい』

そうしてあたしは眠りについた

葵

母「ユイ！家庭教師の先生いらっしゃったわよ」

朝、眠い目をこすりながら下におりる

ユイ「何の話？」

母「早く着替えなさい。今日は体験で先生お呼びしてるから」

ユイ「なんの？」

母「家庭教師だって言ってるでしょ？」

ユイ「はあ？何それ！聞いてないし！」

母「あんたが勝手にしろって言うから勝手にしただけよ」

あのかばあ！！！！って心の中でサイテーなこと叫びながら着替える

母「お待たせしました。どうぞ」

——前言撤回：母さん大好き！！！！

ユイ「葵さん…」

葵「ユイちゃんじゃん！！」

母「あら、知り合い？じゃあやりやすいわね」

スリッパの音を残してリビングに去っていく母

ユイ「カテキョーって…葵さん？」

葵「そうっぽいねw」

ユイ「歌じゃないの？」

葵「こっちはバイト。本業はあっちのつもりだよ」

ユイ「…こ…こんなところもなんだし、上いきましょ?」

部屋にはほとんどいないから汚くもキレイでもない部屋に案内

葵「女の子の部屋って感じだねw」

ユイ「そうですか?」

葵「はい、じゃあ苦手な教科はなんですか?」

って家庭教師らしい質問しながら眼鏡をかける葵さん

その葵さんからまた目がはなせない

葵「ユイちゃん?」

ユイ「あ…いや…眼鏡…似合うなあってw」

葵「ああ…ありがと(?)」

気まずい…

葵「まず…英語からする?」

ユイ「はい」

久しぶりに机に向かう

葵「分からない所ある?」

ユイ「えっと…」

英語…得意な方なんだけどw

葵「……」

ユイ「……」

黙ってたらず急に頭を撫でられた

ユイ「わあっ！」

葵「あ、ごめん…髪の手細くてきれいだな〜って思ってたさ」

恥ずかし…鼓動が速くなる

ユイ「英語は…大丈夫」

葵「あ…本当に?! ごめんw」

ユイ「いや…じゃあ…あの…葵さんの好きな教科は…?」

葵「俺?...音楽ww」

ユイ「あ! そうか! w」

正直、今日は体験だからって、ほとんど勉強してないですw

でもほんとに…気になってる人という時間って短く感じるね…

葵「どうでしたか? ユイちゃん」

ユイ「最高に楽しかった!」

葵「じゃあお母さん、家庭教師始めるならまた電話してください♪」

母「はい! またユイと相談して決めさせて頂きます」

葵「じゃあ…またねユイちゃん♪」

家の中から光が消えた

ユイ「母さん! あたし葵さんとすっごき気あうの! だから家庭教師
とって!」

母「あんたの顔見てたらもうとるの決定してるわよ」

ユイ「やった!!」

それからあたしの勉強タイムが始まった

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2513ba/>

気まぐれで短めの連載に挑戦！

2012年1月7日16時48分発行